LUZ の熊野古道案内

2008 年　10 月　中

10 月 12 日　～　20 日

je2luz.exblog.jp

目次

２００８年　１０月

10 月１２日　木本祭り　**1**
10 月１３日　木本祭り　**2**　宵宮の晩
10 月１４日　木本祭り　宿所
10 月１５日　木本祭り　御輿
10 月１６日　木本祭り　御輿の浜入り
10 月１７日　木本祭り　六方行列
10 月１８日　木本祭り　栄町・よいや
10 月１９日　木本祭り　祭りと子供と町づくり
10 月２０日　田舎の佇まい　隠居

2008 年　10 月　12 日

熊野の旅　木本祭り　1

昨夜は木本神社秋の大祭の宵宮でした。

一番先を進む新出町の山車が家の前を通過して小一時間してからカメラを持って出かけてみました。

例年より少し進行が早くなっていたようです。

新出町、栄町、井筒町の出し物だけちょこっと撮って帰ってきましたが、明らかに子供が減り、参加者の老齢化が進み。見物人もまばらになっています。

平成の若い衆がそろそろ参加してこなくてはならないのですが、昭和の青年団がまだ現役のようです。昔ならもう引退してゆったりと見物しているはずの年の人が相変わらず第一線に居ますね。代わってやらないのではなく、代わる後続部隊が居ないのですね。

今日は本祭り、快晴に恵まれました。

新出町の山車が出発しないと他は動け無いのですが、今年の出発は例年より遅かったようです。遅く出発して早く神社に入れたほうが車の通行の邪魔をしないのでよいでしょう。最早、見物人が山になって喜んで出し物を眺めているわけではありませんからね。

祭りちょうちんの数は増えています。

宵宮の時、本町筋には祭りちょうちんに火が入ってそれなりにムードはあるのですが、肝心の家の人は出てきません。

足が悪くなって出てきにくい家の人に代わって、祭りの行列を応援しているようです。

淋しい物ですね。

　お昼から少し写真を撮りに行って来てここにアップします。

くっ付いて切り取れば、昔も今も変わらない祭りなのですがねえ・・・

Tags:熊野市 昭和 石畳 by **je2luz** | 2008-10-12 10:39

2008年 10月 13日

熊野の旅　木本祭り　2　宵宮の晩

木本神社の宵宮には各町内の出し物が当日同様に木本町内を巡行して回ります。

御輿、六方行列などは昼間の行事ですが、新出町の『だんじり』を先頭に栄町『よいや』、井筒町『子供御輿』、新田『新田元宮太鼓』の順に巡行するのは当日と同じですね。

宿所ごとに酒が振舞われ、子供にはジュースなどが振舞われるのも同じです。

『だんじり』も岸和田のように若い衆が引っ張って疾走するものではなく、子供が引っ張って『伊勢音頭』にあわせて優雅に進む物です。

だんじり自体も小さな物です。

写真のように子供が引っ張るのですが、かつては綱にすがるのが大変なくらいの子供がいたものです。

しかし、今ではパラパラとですから、どこの町内とか関係なく引っ張ることが出来ます。

この子などは、栄町の『よいや』の主役です。

四人の男の子が輿にのって、太鼓をたたき、『よーーいや』と掛け声をかけます。

この掛け声がそのまま呼び名になっているようです。

この町内は木本の商店街『記念通り』を含む割合と広い所ですから元から子供の多かったものです。しかし、今では町内の子供の数が減って、この町内で育って近郷に住んでいる人が子供づれで参加しているようです。

木本にはこうした出し物がない町内が沢山あります。
古くから木本の中核をなしていた本町筋では、稲荷神社を抱える端っこの『新出町』にしか無いのです。
１丁目、２丁目、３丁目、関船町、布袋町にはありません。
むしろ新興地の井筒町。栄町、新田にあるのです。
木本神社は古いお宮さんですが、今の形の祭りになってのはさほど古くないでしょうね。
今では呼び物になっていろ『六方行列』も大正から昭和に掛けての導入らしいですからね。子供御輿、元宮太鼓の作りもものすごく新しいですし…
古くないといっても、大正時代にはだんじりも御輿も賑やかに行われていたのは確かです。

今でも新出町の男は着物姿でだんじりについて歩きます。今と昔ではその着物が少し変わったようです。新出町は小さな町なのですが、『旦那衆・だんなし』が多かったそうで、そうした人は『大島』を着るのが作法だったそうです。
酔いどれることなく、シャキッとして祭りの先頭を歩くのが『新出町衆』の誇りだったそうです。

Tags:熊野市 昭和 モノクロ by **je2luz** | 2008-10-13 11:34

2008 年　10 月　14 日

熊野の旅　木本祭り　宿所

木本祭りの出し物は町内を一周します。
一周と言っても長い方でも 1Km もない市街地の表通りを巡行するのですから、距離にすると大したことはないです。
総延長で 2Km も無いのですから、少しまともに巡行すれば１時間、のんびりやっても１時間半もあれば終わってしまいます。
これじゃあ、いくらなんでも…ということなのですが…

巡行の途中には行列の休む場所があちこちに用意されています。この休み場所・宿所は少しずつ変化して来ています。大昔は分かりませんが、昭和期になった頃には、各町内の有力な人の家の前に構えるようになっていました。

いわゆる『大店』とか『町会議員』『県会議員』の家が、振舞い酒を出し、子供たちには駄菓子やみかんやジュースなどを出していたのです。『町会議員』が『市議会議員』と呼び名が変わってもその習慣が続いていました。

これは明らかに『公職選挙法違反』と言うものです。

今でも各地で残っている風習なのかと思いますが、出す方より要求する住民の方がおかしいはずなのですがねえ…祭りだとか言う口実で押しかけるにしても、神の名を借りて、民主主義の根幹まで捻じ曲げようと言うことですからね。

およそ、神輿と言う物は『比叡山の僧兵』が都に押しかけた頃から悪い方にも随分利用されてきたようです。

ここの御輿でも、昭和の中頃までは、寄付を渋った家とか、気に入らない家にはわざとぶっつけて。軒先や店を壊したそうです。

昭和の後半になると、壊した時は宮さんの役員が謝りに行き弁償を申し出たようです。

暴れる方はおとなしくなってきても振舞い酒を断る所には進まなかったようです。

この宿所も近年では各町内一箇所になり町内会で世話をするようになったところが殆どです。

と言うより、祭りの巡行の道筋には市議会議員もいなくなったということもあります。

一箇所だけ、クラブが二軒、小料理屋が一軒、町内会が一箇所、元県会議員の家…合計５箇所が３０ｍほどの間に並ぶ所があります。

礼儀上、全ての宿所では止まる事になりますから、飲むほうも大変ですね。

華やいだ祭りの後 静まる町を背に．星を眺めていた ・・・
と、いう歌もありますが・・・

宵宮の夜だと言うのに、近年は本町を行き交う人も見かけません。
参加する人をかき集めて巡行しているので見物に出る人は残って居ないのです。
空家とお年寄りばかりとなった本町だと、夜８時半だとか９時なんて夜中ですからね。　昔より数の増えた祭りちょうちんと灯篭だけが巡行を待っていてくれます。
この写真も、人払いをして撮ったのではなく、人が通らなかっただけです。

Tags:熊野市 石畳 モノクロ　　by **je2luz** | 2008-10-14 11:46

2008年　10月　15日

熊野の旅　木本祭り　御輿

『御輿』とは『輿』であり『乗り物』です。
祭りのときに『神様』が乗って神域の外に出てくる乗り物です。
大体において細かい細工のされた非常に高価な代物です。
人件費の安かった時代にはどうだったのかは分かりませんが、今の時代になると一千万円とか数千万はすぐにかかるそうです。細かい部材を一杯組み立てていて、ものすごく目方のあるもので、恐ろしく丈夫に出来ています。
年に一回、二回とはいえ、振り回され投げ出され、酒や水をぶっ掛けられ、はては湖に入ったり海水までぶっ掛けられながら百年でも持ちこたえます。
普通の木造住宅ではとても耐えられませんね。

木本神社の御輿も祭りの当日、神主さんが神事の後でお御輿に神様の宿ったお札を乗せます。

この『お札』が乗ったときから、ここが『お社』見たいな物になり、神聖な物になるわけです。

本来は、その神様が乗った乗り物を、早くから禊をし、酒も女も絶って身を清めた男たちが担いで回るものなのです。地域によっては今でもそれに近い慣わしの所もあるようですね。

そうした神様の乗り物のはずが、前に書いた僧兵が担いで悪さした『比叡山の御輿』同様、暴れるみこしが多いようですね。もし、神様が乗っておられるなら…

私がもし神様なら…こんな乗り物には乗りたくないですね。

去年も書きましたが、東京の三社祭ではいくら禁止しても御輿に乗っかるのが出て止められないので、御輿を出すこと自体を神社が止めたとか…

その地区の伝統…なのでしょうが、いつの間にか変わってしまったものが伝統にされている面も多いようです。

御輿に乗っかる、みこしの屋根を叩いて音頭をとる、清めの限度を越える酒をぶっ掛ける…

あまり見場の好いものではありませんね。威勢良く担ぐのは良いのですが…

全国的に見て、こうした御輿の実態はどんな物なのでしょうね。

かなりの重量物の御輿ですからかなりの危険も伴います。

出立ちの時の清めの酒は別として、担ぎ手にへべれけになるまで酒を飲ませる地区ってどれくらいあるのでしょう。

木本の神輿に関しては、昔ほど喧嘩は無くなっていますが、かなりの数が酩酊状態、

みこしの酔払い運転になっています。

　長い間、台車に乗せてジグザグに引っ張っていた、この御輿も今年はきちんと担いで本町を巡行しました。
　担ぎ手不足もあって台車に乗せていたのですが、台車に乗せると『御輿』ではなく『山車』みたいなものですね。
　台車だから一杯乗っかっていたのですが、取り外して担ぐとなると、やたらと乗ることも出来なくなります。今年は神様もほんの少しだけ楽だったかもしれません。

カメラは[redacted] **センチュリー・グラフィック＋トプコール S65mm**

Tags:熊野市 石畳 モノクロ　　by **je2luz** | 2008-10-15 11:25

2008 年　10 月　16 日

熊野の旅　木本祭り　御輿の浜入り

　何十年ぶり？に担いでもらって巡行した御輿は 600mほどを３時間余りかかって、お旅所である新出町稲荷神社に入ります。
　ここで各出し物も御輿もしばらく休みます。
　各町内の出し物が朝から出て神社に向かうのは御輿を迎えに行く道中です。
　木本神社から新出町稲荷神社までが本番と言うことでしょう。
　この間は御輿を先導する役と後に従う役になっています。

　稲荷神社で一休みした御輿はまっすぐ海に向かいます。
　この御輿が通るので、稲荷神社の鳥居の前から海に向かってまっすぐ道があります。
　そして、国道の向かいっ側の堤防には浜に出る樋門が設けられています。
　この通路は年に一度の祭りのために作られたものです。
　堤防より祭りのほうが古いですからね。

この通路を抜けて、御輿は七里御浜に出ます。

非常に歩きにくい砂利浜を、波打ち際に向かって下りてゆくのですが、近年では砂利が減って、なだらかな下り坂になってしまったので、随分楽にはなっているようです。

今から３０年ほど前までは浪を打つように起伏を繰り返していたので、波打ち際に出るのはものすごく大変だったようです。

波打ち際に出た御輿は海の水で清められます。

今は、ほんの少し飛まつをかけるだけですが、昔は完全に浪を被せたこともあるようです。

逆に台風が接近していて近づけない年もあったようですがね。

今年は例年よりほんの少し進行が早かったので、かなり明るいうちに浜に入りました。

波打ち際に向かう御輿の向こうには、海から上がった１４日月（小望月）がかかっていました。　情景としては中々の物でしたね。

海で清められた御輿は再び岡に上がって、休み休み神社への帰途に着きます。

この帰りの道中は神様も淋しい物です。

朝から迎えに来た各町内の出し物も、稲荷さんからはバラバラに帰ってしまいますから、御輿が単独で夜の街を帰るのです。

見物人もなし・・・

担ぎ手も酔いと疲労が頂点に達し。帰りの 600mは気が遠くなるほどかかります。

今年も神社に帰り着いたのは午後１１時５０分でした。

ご苦労さんでした。

Tags:熊野市 七里御浜 モノクロ by **je2luz** | 2008-10-16 11:56

2008年 10月 17日

熊野の旅　木本祭り　六方行列

熊野市木本町は徳川御三家の一つ、紀州藩の領地です。

新宮が堀内藩に分かれた後も、色んな経緯があったにしろ紀州本藩に残りました。

もちろん紀州藩のお殿様は和歌山に居られました。木本から道のりにすれば４０里を越すでしょう。そのため、紀州公がお見えになることはありませんでした。

紀州公の参勤交代の道筋も紀伊半島を一周するような遠回りはしませんでしたから。木本は通っていません。

しかし、木本祭りには『六方行列』と言う、『奴さん』の行列があります。

最近はこれを呼び物にして売り出し中です。

Tシャツも売られていますし、祭りの道筋には『六方行列』と大書した相撲幟のような立派なものが立つようになってきました。

このように、子供が白塗りに隈取の化粧をして、奴さん行列をする物です。

始まりは木本の人が他所に出かけたときにこうした出し物を見て、これは面白い・・・と言うことで導入したらしいです。時期的には大正から昭和にはじめらしいですね。

その頃の木本は景気もよかったので、祭りには仮装行列やら、芸者衆（結構たくさん居たそうです）の道中踊りなどもあったようです。

これが定着して、もう半世紀以上経ちますから完全に『伝統の・・・』ですね。

ただ・・・『由緒ある・・・』には成れませんね。

この行列を組むのは中学の三年生二年生と決まっていました。

木本神社のある親地町の子供だけで余ってしまい、出してもらうのが大変だった時代もあるのですが、今では全く不足するので、小学生の低学年らしい子供まで歩いています。

飾り物の小道具が大きく見えるくらいです。

行列は歌舞伎の所作よろしく、大きな身振りで踊りながら進みますから、まるで前に進みません。まあ、御輿が進みませんから、これも進まなくてよいわけですがね。

この写真でも後に見える最後尾の子供などは小さなものです。
祭りの前に練習するのですが、昔だと出番はせいぜい二年でしたが、これだと１０年近くやりますから、卒業するまでには超ベテランになりますね。
Tags:熊野市 昭和 モノクロ by **je2luz** | 2008-10-17 11:31

2008 年 10 月 18 日

熊野の旅　木本祭り　栄町・よいや

六方行列に続いて、栄町の出し物『よいや』も少し田舎の祭りでは無さそうな雰囲気の物です。

宵宮のときにも載せたのですが、このような頭に布団を戴いた輿に稚児さんが四人

乗り、笛太鼓で祭囃子を演奏します。
　担ぎ手は町内の大人です。
　これも昔は若い衆だけで担げたのですが、今では結構な年まで担いでいます。

　決して若くない担ぎ手たちですが、稚児さんの『よーーいや』と言う掛け声にあわせて輿を高々と差し上げます。　意味はよく分からないのですが、これがこの輿の見せ所です。担いでいるからできる所作です。
　ただ、難しいのは四人の稚児さんを除いて子供たちの参加する部分が少ないので祭りとのつながり意識を持たせるのが大変でしょうね。
　宵宮などでは、『子供たちに他の町内以上に気を使って大切にしているのが読み取れます。

　写真全般を見ても、この狭い本町筋の石畳道を祭りの出し物は進んでゆくのですが、背景に殆ど見物人が写りこみません。
　別に私が意識して排除して写真を撮っているわけではなく、見物人が居ないのです。
　農村や山村の道を行く風景なら人が居なくても当たり前なのですが、町中を通っているのにこれなのです。
　いまから３０年ほど前でも子供の数は今の数倍いたのですが、もう見物人は激減していましたね。
　沿道に一杯人が居て、御輿などが暴れると逃げ回った風景は私が東京に出る前…もう４０年以上前のような気がします。
　今後１０年で木本…いや熊野市の人口は２割くらい一気に減りそうです。
　祭りが…いや、町が維持できるのかどうか分かりませんね。
　全国では、『祭り』が無くなった集落が出始めたそうですからね。
Tags:熊野市 昭和 モノクロ　　by **je2luz** | 2008-10-18 11:34

2008 年　10 月　19 日

熊野の旅　木本祭り　祭りと子供と町づくり

木本祭りは大層な祭りではありません。

今まで取り上げてきた出し物などが町を巡行するのがメインのような物で、木本神社での大きな催し物がある訳ではありません。

もちろん神事はあり、それに伴う『浦安の舞』もありますし、『獅子舞』の奉納もありますが、客寄せ、見世物としては弱い物です。

他所の神社では『浦安の舞』のために舞台を組んで「参拝者」？「見物人」？に披露するほうを優先した所もありますが、木本神社では本筋らしく拝殿の中で舞うので殆ど一般人には見えません。

拝殿と言っても小さな物ですからね。

舞姫の姿は拝殿に登る時から先は午後の出し物巡行の時には付いて歩いていますから見ることは出来ます。

しかし、隊列がバラバラでまともに進行しませんから、舞姫たちも退屈ですし、本来の歩くべき位置づけもはっきりしないので、随分だらけた状態になってしまいます。

他にも、一番先頭に居なくてはならない獅子舞の主役の『じーじー』と言われる稚児さん役も退屈で体を持て余す物です。

本来は雅楽の係りらしき衣装を着けた子供も居るのですが、存在感は無し…

これも、あまりにも巡行経路が短いので、段々時間つぶしの習慣が出来てしまったのかと思われます。

平均時速 250mくらいでしょうかね。

新田の『新田元宮太鼓』は大きなリアカーに子供を乗せ、太鼓を叩かせながら引っ張るので、結構大勢の子供が主役になれます。

主役になればそれなりに面白そうですが、主役になれない町内の子供や、主役だけど出番が無く、衣装を着てひたすら待つだけとか、出し物を引っ張ってほんの少し進んだら休んでばっかりだとかになると、子供は退屈してしまいます。

幼稚園や小学校低学年は親やじいちゃんばあちゃんに付き添われて我慢していますが、ちょいと大きくなると、居なくなっちゃいます。もう少し大きくなると姿も見せなくなります。

昔は、宿所で出されるカルピスや駄菓子などがものすごく嬉しかった物です。

終わった時にお駄賃にくれる袋入りの駄菓子もものすごく楽しみだったのです。

だから、かなり大きくなっても、最初と最後には行列に入っていたものです。しかし、そうしたものはもう３０年も昔に子供たちの興味を引くものではなくなってきて

いたのです。
　夏祭りでは夜店も立ち子供の目が輝くのですが、本祭りではポイントが無いだけに屋台を立てても商売にならなくなり、そうした楽しみも無くなっています。

　こうした見方は一歩引かないと見えないようです。
　私の育ちは山間部です。木本祭りから見れば部外者なのです。
　子供の頃には木本にも家があるので見物に来ていましたが、大人になって東京から戻った時に思ったのは、『随分見物人が減ったなあ…』と言うことでしたね。
　そして、参加者以外は『退屈な祭り』だと言うことです。

　町内での打ち合わせで、『進行の改善と子供をもっと大切にする金の使い方』を提言したこともあります。
　当然のこととして…『これがここの祭りなんだ、よそ者には分からんだろう』と、言われましたね。
　そうです…私には分かりません。
　なぜ大人は…いや、酒飲みは何日も飲み倒して…子供や下戸はひたすら耐えなくてはならないのか…
　おなご衆も詰め所で何日もひたすら酒の肴を作って待たなくてはならないのか・・・
　祭りの前後にはまともな夕飯が家から消えるのか…　（部外者の私の家では平常どおりでしたがね。）

　なんて書くと、叱られるでしょうね。
　祭りが悪いのではなく、長年の間に溜まった錆や牡蠣殻のような物が進行を遅らせているのが悪いだけなのですがね。沈没寸前になってエンジン全開、全ての出し物が台車から下りて担がれだしましたが…

　殆ど全員他所に行く木本の出身者が『祭りだから帰ろう…』なんて思う下地を作ってありません。
　こうした写真を目にすれば懐かしいのは懐かしいでしょうけどね。
　他所では、何があっても祭りには帰ると言うところもあるようですね。
　ここは何十年も前からの町づくりの失敗なのでしょう。
Tags:熊野市 石畳 モノクロ　　by **je2luz** | 2008-10-19 11:5